

骨粗しょう症による背骨の骨折

女性の発症割合高く、注意



整形外科診療講師
熊丸浩仁

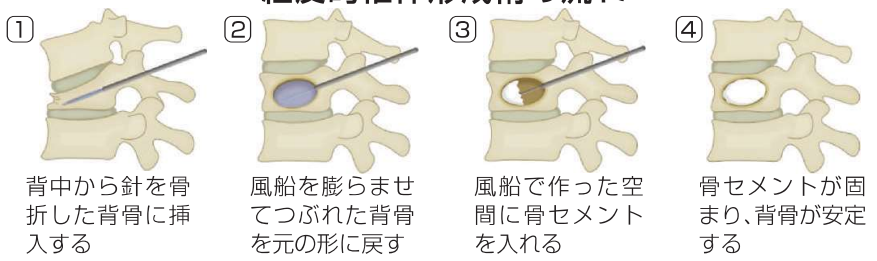
私たちの背骨は年齢を重ねると、多くの人が骨粗しょう症によりだんだんもろくなり、スカスカになった背骨は転倒など軽い外傷でつぶれてしまいます。特に女性の発症割合が高く、注意が必要です。骨粗しょう症による背骨の骨折は圧迫骨折と呼びます。圧迫骨折はドミノ倒しのように連鎖し次々と隣の背骨がつぶれるため、背中が曲がったり身長が縮んだりする原因になります。

圧迫骨折が起きた直後は強い腰痛や背中痛みがありますが、多くの場合は安静・コルセットによる治療で背骨が固まり、痛みは改善します。ところが骨が固まらずにくらついているような場合は強い痛みが続き、数カ月安静が必要となります。長期間、ベッドで安静にしていると身体能

力や脳の機能が大幅に低下し、あつという間に元気がなくなり、寝たきりの原因になります。そのため骨折後に早い段階で動くことが重要になります。早くから痛みをとり、体の負担が少ない治療法として経皮的椎体形成術があります。手術方法は2本の細かい針を背中からつぶれた背骨の中に挿入します。その後、医療用の風船を骨の中

で膨らませ、つぶれている部分を骨折前の形に近づけ、骨セメントを入れます(図)。くらついている部分が安定することで痛みが改善し、翌日から歩行が可能となります。また曲がった背骨もある程度矯正できるため、姿勢も良くなります。

経皮的椎体形成術の流れ



経皮的椎体形成術は5mm程度の傷で行える手術です。出血も10cc程度で、体への負担は少ないです。しかし、圧迫骨折後に時間がたつて背骨が固まった後は手術の適応外で、背骨がバラバラになっている場合などは対応できないこともあります。現在ではMRI検査で圧迫骨折した背骨が固まるかどうかを予測することができます。骨折部が固まりにくい場合は早い時期にこの手術をすることで、すぐに動くことができ、歩行能力の維持や寝たきり防止につながります。

圧迫骨折の連鎖を止めるためにはまず骨粗しょう症の治療が非常に大切です。圧迫骨折後に腰痛や背部痛が持続している人、背中が曲がって生活に困っている人がいれば整形外科専門医に相談してください。

連鎖し背中曲がる原因に